

時代を経ても変わらないこと

私が小学生のとき（今から40年以上前になります）の、2学期の終業式で校長先生がお話しされた内容を今だに覚えています。それは次のような話です。

「明日から始まる冬休みにあたり、3つのお話をします。

1つ目は、自動車に気をつけるということです。年末で忙しくなると、自動車もスピードを出して走りがちです。交通事故に気をつけましょう。

2つ目は、家の手伝いをするということです。暮れには大清掃など、お家の人はとても忙しくなります。皆さんも少しでもお手伝いをしましょう。

3つ目は、日記を付け始めようということです。1日を振り返ることは大切です。元日から付け始めるといいでしょう。

なぜ覚えていたかというと、当時の校長先生が2年続けて同じお話をされたためです。（もしかすると当時は退屈な感じで話を聞いていたかもしれません）昭和50年代の話ですが、今になって思うとこの3つの話は色あせないとても大事な内容だと感じています。

現代の状況を加味してアレンジすると、次のような内容になると思います。

1つの交通事故では「自転車は被害者にもなるし加害者にもなる」ことが新たな注意点です。道路交通法の改正に伴い、ヘルメット着用の努力義務化や危険運転への罰則強化が新たに加わりました。

2つの手伝いという話は、今でも全く変わらないことだと思います。年末に家族中が忙しくしている中で自分だったらどんな手伝いができるか考えてみましょう。

3つの日記ですが、SNSの間違った利用方法から、トラブルに巻き込まれる事案も発生しています。SNSの利用方法については十分な注意が必要です。

40年を経ていまだに大切なことを話された、当時の校長先生の見識に改めて感服する次第です。（恥ずかしながら当時はそのようなことは何も考えずに聞いていたとは思いますが・・・）

明日の校長先生のお話の中にもこれから先何十年後かに「そうか！」と気付かされる内容があるかもしれませんね・・・。

冬休みに入ります！

明後日から始まる14日間の冬休みは、年末年始の慌ただしさの中にも、中学生にとって心待ちにしている行事が数多くあることだと思います。平穏な日常を過ごせることの素晴らしさに改めて感謝するとともに、大きな事故やトラブルなく冬休みを終え、始業式を迎えることを心から願っております。

保護者の皆様には、今年1年、綾中学校の教育活動にご理解と多大なるご協力を賜り、誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

来年も引き続き、本校の教育活動にご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。

皆様、どうぞ良いお年をお迎えください。

学校HPご覧になってください！



毎日アップしています。アクセス数もうなぎ上りです！ぜひご覧になってください！！

裏面に続く

おやじの唄 ケチなおやじがくれた二つの宝物

落語家 桂小金治（故人）

我が家は魚屋をやっていました。僕は坊主頭に鉢巻きを締めて店の手伝いをしながら、商売の難しさ厳しさ楽しさを少しづつ覚えていきました。

たまには褒美の一つくらい買ってくってもいいと思うのに、おやじはいつも「欲しいものがあったら自分で作れ」と言いました。

でも、作れないものだってあります。たとえばハーモニカ。

「父ちゃん、ハーモニカ買ってよ」「何で？」「良い音がするんだ」「良い音ならこれで出せ」そう言っておやじは、神棚のさかきの葉っぱを取って吹いて見せてくれました。

そして言いました。「悔しかったら吹けるようになってみろ」

それから毎日、学校の行き帰りに垣根の葉っぱをむしって吹きました。でも、ずっと鳴らないので3日でやめてしまいました。



おやじが言いました。「草笛鳴るようになったか？」

「鳴らねえからやめた」と僕が答えると、おやじは怒って言いました。

「何でやめるんだ。俺は吹けるのにおまえは吹けない。おまえは負けたってことだ。負けたら悔しがれ。悔しかったらやってみろ。やるからには続けろ。続けて初めて答えが出るんだ」

悔しかったので、また吹くようになりました。

ある日、ピーと音が鳴りました。そのうちメロディを吹けるようになりました。

僕は自慢げに家に帰り、「父ちゃん、草笛吹けるようになったよ」と言いました。

おやじは、「おい、偉そうな顔するな。できるようになったことを自分一人の手柄と思うな。世間の皆様のお力添えと感謝しろ。自分一人でできることなどない。『片手で錐（きり）は揉めぬ（もめぬ）』というだろう」

昔の人はいい言葉知っていますね。両方の手が協力して初めて一つの役立ちができるということです。

次の朝目を覚ますと枕元に新聞紙に包んだ細長いものが置いてありました。開けてびっくりしました。ハーモニカでした。

あの時の感激は忘れられません。欲しがっていたハーモニカを、あのケチなおやじが買ってくれたんですか。

僕はハーモニカを胸に抱きしめ、おやじのところに飛んでいきました。

「父ちゃん、ハーモニカ買ってくれたの？」と言うと、おやじは言いました。

「努力の上の辛抱を立てたんだ。花咲くのは当たりめえだろ」

昔の親は、わが子にハーモニカ一つ買うにしても、こんなに心を碎いてくれたんですね。『荒城の月』を吹くと、おやじは目にいっぱい涙を溜め、僕のハーモニカをじっと聴いてくれました。

今でもハーモニカを吹くたび、僕は死んだおやじを思い出します。

厳しかったあのおやじのおかげで、「草笛を吹ける」という楽しみと「ハーモニカが吹ける」という喜びを、人生の友として僕は得ることができたのです。

今でもありがたいことだと、おやじに感謝しています。